

知事との県民対話集会（飯田市）概要

- ・開催日時 令和4年12月2日（木） 午後4時から午後5時30分まで
 - ・会場 エス・バード 2階ホール
 - ・参加者 県民150名、佐藤飯田市長、阿部知事、丹羽南信州地域振興局長
 - ・テーマ リニア中央新幹線の開業を見据えた「大学のあるまち」の共創
- ・主な発言（要旨）

【参加者】

・若手経営者の会で、大学との連携による地元産業の活性化やデジタル人材が地方へ企業を引き寄せる事例などを学んだ。当地域でも4年制大学で育成された専門人材を活用し、高度化や新分野へのチャレンジによって企業が成長し産業が活性化することを期待している。

・中京圏や関西圏から学生を募るとき、南の玄関口としてここに大学があるのは県全体のメリットになる。

【知事】

・デジタル人材の育成確保は喫緊の課題。政府の教育未来創造会議でも地方大学の充実を強く訴えている。県としてもデジタル人材の育成は力を入れていきたいし、高等教育機関の充実にも取り組んでいく。

・南信州地域に高等教育機関をつくるべきという方向性には同意。どう具体化するのか、対話しながら皆さんと考えていきたい。

【参加者】

・高校を卒業すると多くの若者が進学や就職で他地域に出てしまう。大学設置をきっかけに、この地域に残る若者や新しく来る若者が増えてほしい。地域外に出ていった友達が戻ってきたいと思える、若者を意識したまちづくりをしてほしい。

・同年代の若者が減り、若者同士の交流があまりない。大学設置やまちの機能、自然や文化等をきっかけに地域の魅力を感じ、愛着を持つ若者が増える取組を県に応援してほしい。

・高校の同好会で新体操をしているが、大学で続けるためには県外にいかないといけない。

・県内外の大学生と交流したことで、新たな視点で多くのことを学び、大学生への憧れを持つことができた。大学ができれば、もっと多くの人が大学生と関わることができる。

【知事】

・若い人達が住み続けたいくなるよう、次期総合計画では、女性や若者から選ばれる地域づくりをプロジェクトに位置付けて取り組んでいきたい。若い視点で一緒に考えてほしい。

・高校生や中学生にとって、大学生が身近にいると刺激を受けられる。そういう観点でも大学の存在は重要だと思う。

・単に大学があればいいということではなく、誰が、何のために、どんな大学を設置するか、皆さんと共有しながら考えていく。

【参加者】

・若者が増えて新しい交流や活動が生まれ、伝統芸能や地域の担い手として活躍できれば地域が元気になる。

・リニアが開業して気軽に大都市と行き来できるようになると、この地域に住む理由がなくなってしまう。私たちにできることを頑張るので協力を。

【知事】

・全国で人口が減少していて、大学設置はハードルが高いが、南信州地域の強みになり得るのはリニアの開業。名古屋や東京の大学に通学でき、名古屋や東京からも通学できる。高等教育の立地・振興にどう活かすかを考えることが重要。

・リニアを活かしたまちづくりと大学をセットにコンセプトを出すことで大きなチャンスになる。ぜひ一緒にチャンスを活かしたい。

【参加者】

・この地域は小中学校の教員確保に苦勞している。義務教育の底上げや中等教育との連携という観点からも、高等教育機関の偏在は解消したい。
・東京で学んでいる留学生がここへ来て生活習慣や文化を学び、人間を取り戻したような感覚を受けたという実績もある。リニア開業を活かし、留学生などを誘導してはどうか。

【知事】

・多様な子どもに適切な学びを提供するため、教員のあり方、配置のルールだけでなく、人の確保も真剣に考えないといけない。教員免許の弾力化も必要。皆さんと一緒に考えたい。
・女性、性的マイノリティ、外国人、障がい者等々が一緒に活躍できる県にしたい。留学生や外国人を受け入れることは必要。一方で外国人の子どもの教育など課題は多い。市町村と一緒に取り組むべき課題と思う。

【参加者】

・飯田下伊那地域の産業振興と人材育成の拠点となる施設として、エス・バードに対する地元の期待は大きい。
・県内の人口10万人規模の市で4年制大学がないのは飯田市のみ。高齢化が進む中、まちづくりには若い活力が必要。高等教育の機会均等、教育環境整備のためにも、エス・バードへの4年制大学設置に向け、県としても支援してほしい。

【知事】

・南信州地域への高等教育機関設置は同じ思い。高等教育の振興やエス・バードの更なる活用について、一緒に考えていきたい。

【参加者】

・これからの若い人がどういう学びの場所をめざすのか。東京ばかり見ているのではなく、中部圏からも若者を引っ張って来られるまちづくりをしてほしい。

【知事】

・県としてもっと愛知県や静岡県に目を向けなければいけないこと、昨日と今日の対話集会で痛感した。

【参加者】

・大学の情報学部は、県内77市町村すべてがほしいのだと思う。そこで、大学誘致ではなく移動キャンパスとしてはどうか。
・情報学部は女子学生が少ないので、飯田女子短期大学と相互利用を図り、女子学生の比率を上げてはどうか。

【知事】

・世界各地をキャンパスとして動き回るミネルバ大学のようなことも、将来的には考えていくことが必要かと思う。
・女性をもっと理系分野に関心を持てるよう、画一的な進路指導ではない教育にしていくことが必要。

【参加者】

・学校現場でもICT化は進んでいる。情報の知識は男女問わず必要。必要性を理解すれば、情報系大学に進む女性も増えると思う。

【知事】

・今まで情報やデータ処理は関係がないと思われていた分野でも確実に必要になってきている。高等教育の場に限らず、デジタル社会向けの教育をより強化する必要があると思う。
・教員にデジタル人材を採用して地域で活躍してもらおうやり方もある。

【参加者】

・当地域に大学がないのは事実で県内での偏りがある。偏在是正のため、飯田にキャンパスを作ってほしい。

【知事】

・地域間で大学の取り合いが生じているのは残念。この地域に高等教育機関が必要であることは十分理解。まずは信州大学自身が新学部設立の目的や方向性を決め、その上で県としても応援したい。

【参加者】

・リニア新幹線工事の騒音問題が解決されない。JR東海と2年間話し合っているが、一歩も前に進まない。

【知事】

・騒音の話は十分状況を把握している。JR東海には、地域の実情を伝え、地域の思いを踏まえてどう対応するのか方向性を出すよう求めている。

【参加者】

・飯田創造館は、飯田下伊那地域の文化・芸術の拠点としての役割を果たしてきた。創造館の存続を強く求める。

【知事】

・地域の皆さんにとって切実な課題と受け止めている。
・かねてから南信州地域の皆さんから運転免許センターを設置してほしいとの要望をいただいている。設置場所を検討する中で風越公園内がいいということになり、飯田創造館は閉館せざるを得ない。
・創造館を守り育てていただいた皆さんには感謝している。
・県と市町村との役割分担の中で、地域の皆さんが中心で利用している施設はできるだけ市町村にお願いしている。分野別にお話を伺い、どうすれば活動が継続できるか、市町村と連携して一緒に考えていきたい。